



カストーディアル

最近、うれしいことが2つありました。一つは、先週、吉野小・大開小の先生や保護者の方とお話する機会がありました。その時に野田中学校の生徒は本当に**気持ちの良い挨拶**をいつもしてくれる。うれしく思うし、小学生にも同じような挨拶ができるように教えていきたい。と言ってもらいました。うれしかったです。もう一つはテスト最終日、本当ならば早く帰ってゆっくりしたい、早く部活動をしたと思うところを**野田クリーン大作戦**にたくさんの人が参加してくれました。

公園にはあまりゴミはありませんでしたが、**小さなゴミも見逃さないぞ**とばかりに真剣にまた一生懸命に暑い中、掃除をしてくれている姿を見て、本当にうれしく思いました。挨拶や掃除ができたからと言って成績に影響するわけではありません。数字として評価に表われるわけでもありません。しかし、そういう**努力を正しく評価してくれる人が必ずいる**ことは知っておいてほしいと思います。そこで、掃除にまつわるお話をしたいと思います。夢の国といわれる「ディズニーランド」。小さな子どもからお年寄りまで世界中の人に愛される一番の理由が、ずばりディズニーランドが**きれいに掃除されている**からと言われています。たしかにミッキーやミニーなどのキャラクターがパレードをしてもその周りがゴミだらけだったら冷めてしまいます。常にランド内をきれいに維持するために、ディズニーランドには、**カストーディアル**（日本語で維持・管理・保護）と呼ばれる清掃スタッフが600人もいるそうです。そして、自分のエリアを15分ごとにまわって、きれいな空間を作り出しているということです。そして、カストーディアルには「ナイトカストーディアル」と呼ばれる「夜のそうじ係」がいて、毎日夜中の12時から朝の7時まで、広い園内をブラシを使って「水洗い」したり、トイレ掃除をする人たちもいるそうです。ナイトカストーディアルのモットーは「赤ちゃんがハイハイできる」くらい、キレイにする！ということだそうです。

また、パナソニックを一代で築き上げた、日本を代表する実業家・松下幸之助さんは、掃除を“仕事と同等に重要なもの”とみなしていました。「掃除を完全にすることとは、一大事業である」「**掃除ひとつでできないような人間だったら、何もできない**」という言葉まで残しているほどです。会社内で清掃の大切さを自ら率先して掃除をすることで社員に教えていたそうです。

掃除というと、“単純な作業”“誰にでもできること”ですが、真剣にやればどうすれば効率的に美しくできるのかという気付きと工夫が生まれるのです。それが仕事に活かされたり、みんなであれば勉強や部活動に活かされるのだと思います。このように掃除はさまざまな気づきを得ながら視野を広げていくことができる行為なのです。ただし、掃除をするということは汚れている、ゴミがあるからです。ゴミがなければ掃除も必要ありません。**ゴミを出さない、汚さないことも大切**だということを忘れないでください。

